



中域ディスクドッジトーナメント 越谷大会 2023 報告書

2023年12月7日



一般社団法人日本ドッジビー協会

大会概要

名称 中域ディスクドッジトーナメント 越谷大会2023 MIDRANGE DISCDODGE Tournament Koshigaya2023

日時 2023（令和5）年12月2日（土曜日）9:00~17:30

場所 越谷市立総合体育館 〒343-0011 埼玉県越谷市増林2-3-3 TEL: 048-964-4321

主催 一般社団法人日本ドッジビー協会

共催 公益財団法人越谷市施設管理公社

後援 越谷市 協賛 文化シャッター株式会社/株式会社ミカサ/株式会社クラブジュニア



越谷市立総合体育館

【募集結果】

- 1)小学生低学年部門▶エントリー2チーム/募集8チーム 不成立
- 2)小学生高学年部門▶エントリー6チーム/募集8チーム 成立
- 3)ユニファイド部門▶エントリー0チーム/募集4チーム 不成立
- 4)保護者他部門▶エントリー5チーム/募集6チーム 成立

- ・不成立となった小学生低学年部門の2チームを高学年部門へ組み込み8チームによる実施
- ・ユニファイド部門は不成立
- ・保護者他部門は5チームでの実施
- ・また、ディスクドッジトーナメント終了後、同参加者によるドッジディスクダンス部門を開催することとなった

【来場者数】 約250名 選手競技者 = 141名 観客等 = 80名 スタッフ・関係者 = 23名

ディスクドッチ小学生部門予選

- ◎ディスクドッチ小学生部門 ※部門名称を小学生部門と変更
- 試合形式 試合時間：各3分30秒の前/後半 ハーフタイム2分
- 試合人数：1チーム10名、前半と後半でメンバー交代が可能
- 対戦形式 ●8チームをX/Yのふたつのリーグに分けた総当たりの予選
- 使用ディスクは「ミカサ250」



予選の結果、

上位トーナメントはチャレンジファイターズ/M.D.Cペディ/峡田ブラック/峡田ホワイト

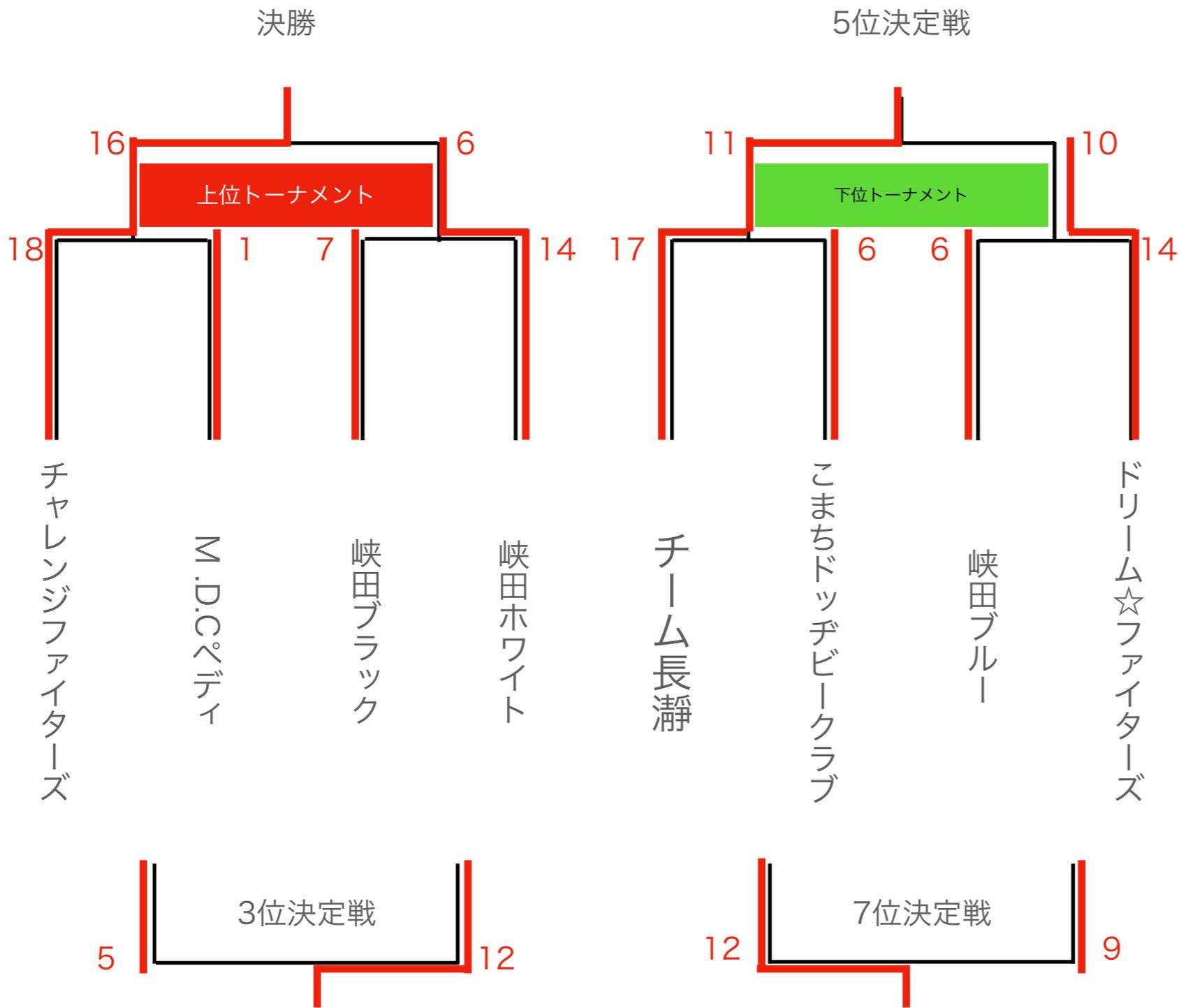
下位トーナメントへチーム長瀬/こまちドッチビークラブ/峡田ブルー/ドリーム☆ファイターズ

<ディスクドッチ小学生部門 リーグ表>

Xリーグ	チーム長瀬	チャレンジ ファイターズ	峡田ブラック	峡田ブルー
チーム長瀬		8-13 ×	6-14 ×	15-7 ○
チャレンジ ファイターズ	13-8 ○		14-11 ○	17-1 ○
峡田ブラック	14-6 ○	11-14 ×		15-7 ○
峡田ブルー	7-15 ×	1-17 ×	7-15 ×	

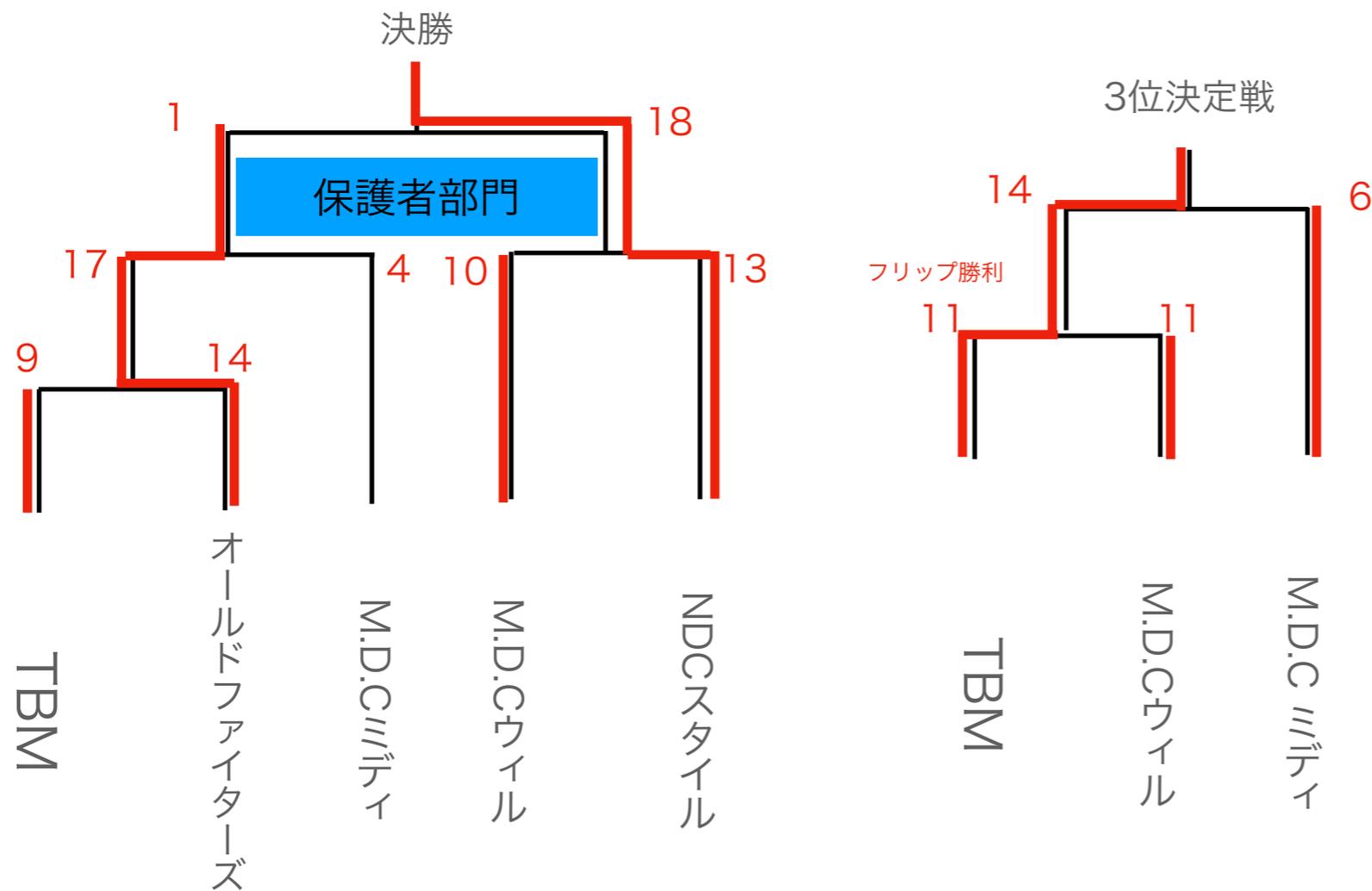
Yリーグ	ドリーム ファイターズ	峡田ホワイト	M. D. C ペディ	こまちドッチ ビークラブ
ドリーム ファイターズ		1-18 ×	10-12 ×	17-5 ○
峡田ホワイト	18-1 ○		14-3 ○	17-3 ○
M. D. C ペディ	12-10 ○	3-14 ×		8-6 ○
こまちドッチ ビークラブ	5-17 ×	3-17 ×	6-8 ×	

ディスクドッチ小学生部門 順位決定トーナメント



最終順位	
優勝	チャレンジファイターズ
準優勝	峡田ホワイト
3位	峡田ブラック
4位	M.D.Cペディ
5位	チーム長瀬
6位	ドリーム☆ファイターズ
7位	こまちドッチビークラブ
8位	峡田ブルー

ディスクタッチ保護者他部門 トーナメント



最終順位	
優勝	NDCスタイル
準優勝	オールドファイターズ
3位	TBM
4位	M.D.Cミディ
5位	M.D.Cウィル

- 1) 試合形式
 試合時間：各3分30秒の前/後半 ハーフタイム2分
 試合人数：1チーム10名、前半と後半でメンバー交代可能
 ※あらかじめ不利の前提を了承のうえで10人以下でも成立
- 2) 5チーム変則トーナメント ※当日、代表者による抽選で組み合わせ決定
- 3) 審判員・審判は配置せず、フェアプレーに則った選手によるセルフジャッジで行う
 ・内野は当たったら挙手して外野へ出る
 ・開始・終了の時間と得点の集計はスタッフ2名が管理するがジャッジはしない
- 使用ディスクは「ミカサ270」

ドッジディスタンス

●参加対象／今大会の①ディスクドッジ小学生部門ならびに ②ディスクドッジ保護者他部門に参加する全選手を対象

●設定部門／ A)小学生女子部門 B)小学生男子部門 C)一般女子部門 D)一般男子部門

A)B)C)予選通過ライン

→25メートル<赤> (予備通過ライン)→20メートル<青>

D)予選通過ライン

→30メートル<緑> (予備通過ライン)→25メートル<赤>

●予選形式／ひとり1分以内に3枚のディスクを投げる。

上記の通り、部門別に設定した規定ラインを超えると決勝へ進出。

●決勝形式／予選上位4名(程度を想定)による部門別のスローイング戦で順位を決定。

決勝は公式ルールに則った計測をおこない、日本記録の更新認定も行う。



ドッジディスタンス 決勝結果

	小学生女子部門 最終順位	小学生男子部門 最終順位	一般女子部門 最終順位	一般男子部門 最終順位			
優勝	永田 美海 29.54m	優勝	瀧上 宙星 28.86m	優勝	江川 藍未 27.26m	優勝	吉井 風真 31.00m
準優勝	羽生 さくら 22.32m	準優勝	中畝 慎啓 24.91m	準優勝	東條 菜月 22.26m	準優勝	菅原 勇輝 30.88m
3位	河内 羽菜 20.98m	3位	田島 翔琉 21.10m	3位	和泉 英子 20.46m	3位	清水 穰治 30.54m
4位	齋藤 帆花 19.41m	4位	吉田 宇 20.87m	4位	肥後 実見子 20.13m	4位	清水 龍起 28.05m

参加賞



参加賞

- 文化シャッター株式会社 様
 - ・BXロゴ入りウェットティッシュ
 - 参加者全員分

- 株式会社クラブジュニア様
 - ・クラブアルティメットソックス
 - ・オリジナルステッカー

- 日本ドッチビー協会
 - ・DBJA公式種目DVD

表彰

□ディスクドッチ小学生部門

①優勝チーム

→全メンバーに金メダル

→副賞 公式ミカサドッチビー270/250/230

②準優勝チーム

→チームに表彰ガラス盾

→副賞 公式ミカサドッチビー270/250

③第3位

→チームに表彰トロフィー

→副賞 公式ミカサドッチビー250

●メダル、盾、トロフィーは全てDBJAオリジナルのドッチビーマーク入り

→制作協賛/文化シャッター株式会社

□ドッチディスタンス

・小学生女子・男子部門優勝者

→ミカサ公式ディスク250/230

・一般女子・男子部門優勝者

・→ミカサ公式ディスク270/250



メダル・盾・トロフィー/副賞ディスク

全体運営所感①

12月2日、雲一つない快晴に恵まれ越谷市にて「中域ディスクドッチトーナメント2023」を開催させていただきました。日本ドッチビー協会としては初めてとなる越谷市立総合体育館でのイベントで、ディスクドッチ4面をとれるフィールドサイズと、それを取り囲む観客スペースの非常に立派な施設にて大会を開催することができました。



【ディスクドッチ小学生部門】

この部門では、当初低学年・高学年で8チームずつの募集でありましたが、低学年部門で成立させることができず、二つの部門を統合した「小学生部門」として開催させていただくことになりました。部門統合にご協力いただいた低学年部門の関係者の皆様ご協力ありがとうございました。今回は4面をとれるフィールドサイズを活かし、8チームが4コートで同時に試合を行うタイムスケジュールを試みました。

初出場のチームが2チームあり、どのような試合展開となるか予想が難しいものでしたが、始まってみるとどの試合も好ゲームとなりました。初出場の「チーム長瀬」は、まだ荒削りながらも集中力の高いキャッチと鋭いシュートでどの試合も接戦を演じておりました。非常に楽しんで試合に臨んでいたのも印象的でした。上位トーナメントでは、非常に鍛えられた印象の「チャレンジファイターズ」が小学生部門を制しました。巧みなパス回しからの速いシュートで着実に人数を減らしたり、落ちるまで諦めないフォローキャッチなど集中力の高さを見せました。残念ながら決勝で敗れてしまった

全体運営所感②

「峡田ホワイト」も、中盤まで一進一退の攻防を繰り返してさらにチームワークに磨きがかかればさらに強くなるチームと感じました。全体的に、どのチームもシュート力が高くポイントゲッターとなる選手を有していると感じました。ただ、強いシュートに頼る余地が逸れたシュートが外野奥まで流れて5秒ルールに引っかかる場面が散見されました。今回上位に入ったチームはいずれもシュート力に加えてパスワークの上手さがあり、相手を動かすパスワークの上達が強いシュートを活かすこととなり勝利への鍵ではないかと感じました。

審判団は、ディスクドッチトーナメントでは久しぶりのレフェリングということもあり、試合をしっかりとコントロールするというところまで少し時間を要してしまったこと、またジャッジについても少し個々のバラつきを感じさせてしまった部分は選手・関係者の皆様にお詫びいたします。



優勝したチャレンジファイターズ



【ディスクドッチ保護者部門】

保護者部門では、初めての試みとして一切の審判を置かないセルフジャッジでの方式を採用いたしました。審判員やスタッフの確保が難しくなっている最近の状況の中で、今後長く継続可能な形の模索として試みた方式ではありましたが、こちらはまだまだ改善・修正の余地が大いにあるものとなりました。選手の皆様のご協力もあり試合自体は滞りなく進みましたが、反則等が起きた時にゲームを止める手段がしっかり確立されておらず、それを正せないまま試合が進行してしまう状況が見られました。ディスクが当たったかどうかの判断自体は、選手が1番わかりやすく誰しもが納得できる状況を作りやすかったのでは、と認識しております。今後は、よりスムーズかつフェアに試合が進むためのルール作りの一環としてセルフジャッジ方式の運用を検討してまいります。

全体運営所感③



【ドッチディスタンス部門】

昨年の駒沢大会に引き続き、本大会でも記録会ではない「大会」としてのドッチディスタンス部門を開催致しました。今大会での試みとして最も大きなものは、予選の方式をディスクが落下した地点のエリアで予選の通過を決める「エリア式」にしたことです。個人種目であるドッチディスタンスは、選手一人一人の記録を測距器にて計測するため、大会として行う場合には、進行に非常に時間がかかるのがこれまでの問題点でした。そこで、ディスクの落下地点を距離ごとのまとまりでエリアに分け、規定のエリアを超えた選手が予選通過となるよう変更しました。こちらは概ねスムーズな進行となり100名を超える選手の予選が1時間強で終了することができました。一方で「小学生男子部門」では、予備通過ラインとして設定した20-25mエリアを記録した選手が20名となり急遽準決勝を開催するという運用に変更がなされました。各部門の適正な予選通過ラインがどの程度なのか今後しっかり見極めを行う必要があると感じております。また、決勝の方式も、これまでの1分間に3投一気に行う方式から、最初の2投を行う第1ラウンド、そして第1ラウンドの結果を受けて順位が下位の選手から最後の1投を行う第2ラウンドという2ラウンド方式へと変更し、より緊迫感が出やすくなるように致しました。

小学生女子部門では、チャレンジファイターズの永田美海選手がカテゴリー日本記録に迫る29.54mmという圧倒的なスローで優勝しました。この記録は、小学生男子、一般女子部門を合わせてもトップの記録、全体を合わせても4位に入るといふ素晴らしいスローでした。今後の更なる飛躍に期待がかかります。

全体運営所感④

小学生男子部門では、決勝に進出した4名全てが「チーム長瀬」所属の選手という快挙でした。そのチーム内での戦いを制したのは瀧上宙星選手。綺麗に伸びたディスクは25mラインを超え28m86mという素晴らしい記録。初参戦のDBJAトーナメントに爪痕を残しました。

一般女子部門では、数々の日本記録をもつNDC Styleの江川藍未選手が決勝の第1ラウンドに出した27.26mという記録で逃げ切り見事優勝。実力を見せつけました。

大混戦となったのは一般男子部門。決勝進出の4名全てが予選で30m超えの記録を出したハイレベルな争いとなりました。最初に2投を行う決勝第1ラウンドでトップに立ったのはNDC Styleの菅原勇輝選手。しかし、最終1投となった第2ラウンドで同じくNDC Styleの吉井風真選手がこの日最長の31.00mで見事大逆転しトップに躍り出て優勝しました。

ドッチディスタンスは、選手へ集まる注目や緊張感に加えて観客にとっても良いスローがわかりやすく見応えのある種目です。本協会としても今後に向けて可能性を感じている種目と認識しており、より良い運営や演出等を模索していきたいと考えております。



小学生女子部門優勝 永田美海選手



小学生男子部門優勝 瀧上宙星選手



一般女子部門優勝 江川藍未選手



一般男子部門優勝 吉井風真選手

全体運営所感⑤

【総括】

全体を通して、まず素晴らしい会場をご提供いただきました越谷市立総合体育館様に心より御礼を申し上げます。非常に大きな体育館や観客席で思う存分選手がプレーできたこと、またトイレや自販機等が充実しており不便なく終日使わせていただくことができました。

今大会にご協賛いただきました文化シヤッター様、株式会社ミカサ様、株式会社クラブジュニア様にも御礼申し上げます。参加賞や賞品で大会に花を添えていただきました。

運営の部分で至らない点が多々あり、反省すべき点をしっかり見直さなければいけないと痛感しております。会場でいただきました参加者の皆さんからのお声をしっかりと受け止め、プログラムの組み方やスタッフの確保、審判技術等まだまだな部分を将来に向けて改善し、継続性を保ちながら多くの方々にドッチビーを楽しんでいただけるよう精進して参ります。最後になりますが、ご参加いただきました選手及びチーム関係者の皆様ありがとうございました。

トーナメントディレクター

日本ドッチビー協会 三浦 奏



全体集合写真